

宇宙の愛  
天の恵みはどこに  
あまのさう  
愛へ 必 受か  
アイ 誰かが私の中に  
私の中に 備えられています 空

1 ページ 絵手紙「愛」 元サマナ絵筆―特に何か団体の宣伝ではないです

2 ～ 10 ページ 杉本繁郎被告からの手紙 その 4

11 ページ 書評『人身受け難し、いますでに受く』

12 ページ 後記「カウンセラー」

# ① 教団の現状と将来の認識

私は今現在の教団の現状を

「教団は多岐ある」といふ

「教団も完全な状態にある」といふ  
限り教団は危険である

もし一教団も完全な状態にあるならば

「将来教団の行くべき道を誤る恐れがある」といふ  
可能性は低い

よって認識としていふべきは

「私は今現在の教団の現状を認識して」

「理想は我々の理想である」といふ

「我々の理想は我々の理想である」といふ  
「我々の理想は我々の理想である」といふ

「我々の理想は我々の理想である」といふ

「我々の理想は我々の理想である」といふ

「我々の理想は我々の理想である」といふ

「我々の理想は我々の理想である」といふ

「我々の理想は我々の理想である」といふ

「我々の理想は我々の理想である」といふ

「我々の理想は我々の理想である」といふ

「我々の理想は我々の理想である」といふ

「我々の理想は我々の理想である」といふ

「我々の理想は我々の理想である」といふ

「我々の理想は我々の理想である」といふ

○「教団は好規あぐえへん」と考へて  
いる理由

私は今現在「教団は好規あぐえへん」と  
考へてはいるが、我々も「あぐえへん」と  
考へてはいるが、その理由が異なる。  
その点も、

①教団は一軒の事件及び未遂に終つて、無差  
別大量殺人計画として教団が実行して来  
た。あぐえへん非合法活動、この総括と評価  
を行つてゐる。

②未遂に終つて、無差別大量殺人計画として教  
団が実行して来た。非合法活動、実行して

来たる。我々が教団代表及び教団幹部として  
して教団を管理運営してゐる。

③我々の教義や思想は、その「一軒の事件」  
はあぐえへん非合法活動として、教団（中心）  
として、非合法活動として、その「一軒の事件」  
は、在家信者から金銭を巻き上げるに  
て、適宜として使われている。この「一軒の事件」  
は、我々が教団代表及び教団幹部  
として、教団を管理運営してゐる。

と考へてゐる。

「一軒の事件」は、その「一軒の事件」  
は、我々が教団代表及び教団幹部  
として、教団を管理運営してゐる。

5

UNIVERSITY

件及び未だいばかりな非合法活動の総括と整理  
をなす必要は、いばかりな非合法活動の総括と整理

教員は90年代後半から「教員」でも「先生」でもなく  
 「先生」でもなく「先生」でもない「先生」でもない「先生」でもない  
 「先生」でもない「先生」でもない「先生」でもない「先生」でもない  
 「先生」でもない「先生」でもない「先生」でもない「先生」でもない

- 2





12

12

13

X

— 8 —

15

5

**VOLUME 1**

consistency:

8

# 書 評 『 人身受け難し、いますでに受く 』

鶴岡瑛著 朝日新聞出版サービス 2005. 3. 31発行

窓口に、時に本をおくってくださる人がいる。原稿段階でおくって下さったものもあった。これも自費出版の本で、私がオウム問題に絡んでいるからだろう送ってくださった。

失礼ながら、送ってくださるなかでの少なくない本は、読むに辛かった。オウムがらみだからともかく買った本のなかにも同様のがある。オウム問題を情報不足のままに書いてあったり、自分の土俵でのみ論じよう、つまりその範囲で都合のよい事実関係のみを書いていた。

時には、吉本隆明が「麻原が法廷ですべて正しかったと言ったらどうするか」との趣旨を言ったことで象徴されるように電磁波系だったりする。(故植谷雄高も、「吉本は旨い物を食べ過ぎて頭がスポンジになったか」と評していた)。

うーん、この本は、凄いです。良いです。うん。2日かけて、じっくりと読んでしまった。他の人にも薦めようと思う。 被告人で、ご希望の方はご連絡下さい、私から送ります。。

何が良いかと言えば、

- ・ 仏教知識があろうとも、自ら真に咀嚼しつつすすんでいること、やたら難しい漢字を使いたがる一部の仏教学者、仏教者と比較にならない。
- ・ 事実を事実としてみていること、決して自分の土俵に引き込んで話そうという態度ではなく、事実の重さに圧倒されながら、必死に考えていること
- ・ 自らの生育歴、歴史を捉えつつ、決してそれにおぼれることなく、麻原彰晃こと松本被告を含んでまで、被告人を他人視せず、そして許しもせず、書いていること。

「謝罪」とかの重さ、現実性の記述を含め、オウム事件の被告人らに会ったこともなく、その他の殺人犯に会ったこともなく、もちろん被害者・遺族にあったこともなかりうに、その心情が(私も、直接の既遂の当事者ではないけれど)どうしてそこまで分かるのか、凄いと思う。

この方、62歳、女性。非僧非俗を立場とする、とされている。著書は、同じところでの自費出版「通説を見なおす、女性と仏教」とのこと。 うーん、お会いすることがあれば怖い感じもする。逃げたくなるかもしれないなあと思う。

たぶん、失礼ながら、自らの神経の線の傷を何とかこらえながら生きてこれたのだろうと思う。時には狂いたくなり、時には人に迷惑をかけ、そのお年になるまでは人格障害だと言われたこともあるのかもしれない、と思う。申し訳ないが、率直な感想。

だが、今これを著わされた。凄いと思った。市井には、こんな人もいるのだ、と改めて思う。自費出版は、すべて金銭を出せば出るというものでもなかりうと思う。著者とこれを出版した朝日新聞出版サービスに敬服。 購入するためには、そこに連絡する方法しかないと思う  
電話:03-5540-7669 FAX:03-5540-7614。

うーん、いろいろなことで、「心理カウンセラー」ということが、話題になるようになってきた。

私は、どんなカウンセラーにしても、精神的な安定—本人が幸せであること—ということが、その経験・能力・知識に勝るとも劣らず、必要だと思う。

知識などなくても十分カウンセラーみたいなことをしている方もいる(もちろん後に逐次知識を得ていくべきこと、先人の智慧と分析は学ばないと)のだから。

もともと「心理」とかに興味を持つ方は、それ自体、

- ・ 人間関係の陥穽とか神秘体験にはいりやすい傾向をもつ方が多いのだろうし、

- ・ 心理的に必ずしも安定していない人が少しは高い比率にあると思われ、

- ・ 自分探しのために心理を学び、実は自分を救うために人を救うという傾向も持ちやすい。

一般事件で多く会う経営者、サラリーマン、よい意味の「おじちゃん」や「おばちゃん」と比較して、まさにそう思う。で、大切なことは、

- ・ 自分が幸せでない人は、人に幸せを分けることはできない」

- ・ 自分が心理的に安定していないまま、他の人の、何か桎梏からの脱却を図り、また心理的安定を図ることはできない

ものですよ。

もちろん、ここで「幸せ」というのは、世俗的に豊かだとか、五体満足だとか、家族友人間で何の悩みもない、というのとは違う。自分を客観視することもでき、人に迷惑をかけないままに、いろんな悩みがあろうとも、自らの判断で生き方を決めていて、「この人生、楽しいな」と真実感じられる「幸せ」です。

それがないと、いかに知識や意欲があっても、  
1 カウンセリングにおいて余裕を持ってない、  
2 対象者からの影響を受けすぎてしまう、  
3 能力があるとき、自らの不幸の代償のために、対象者のグルになってしまう危険性があるものです。(だからまともなカウンセラーは友人らも多く持ち、疲れたときに、自らも癒されるための方法を知っている。

実は、逆に問題があるとしかいいいようのない団体でも「カウンセリング」と称して、勧誘の窓口に行っていることさえある、これは問題。その場合は、自らの信仰の正当性を確認する為の作業でもあるのよね)

私として、自らが余りに不安定なままにカウンセラーを希望する人とか、突如訪れて泣き崩れるそんな知識あるはずの人とか、希望したが直ちに破綻する人とか、諸々の漏れ聞く話などをきくと、時に感じることです。

尊敬できるカウンセラーって、専門資格ある人も、また宗教者の場合も、精神的に安定されているなあ、よい意味で俗人だなあ、選民意識などとなないなあ、と感ずます。

<http://www.cnet-sc.ne.jp/canarium/>

発行 カナリヤの会

〒242-0021

神奈川県大和市中心 2-1-15 パークロード大和ビル 2 階

大和法律事務所 窓口 滝本太郎 気付

電話 046-263-0130 ファックス 046-263-0375 [takitaro@yha.att.ne.jp](mailto:takitaro@yha.att.ne.jp)

横浜銀行大和支店 普通 1 3 4 3 0 7 8 カナリヤの会 滝本太郎